

【対象】
名古屋市民

参加無料

定員400名
【先着順】

手話通訳・要約筆記あり

守ろう、
自分の未来を！

Cervical Cancer Prevention Seminar

子宮けいがん 予防を考えるセミナー

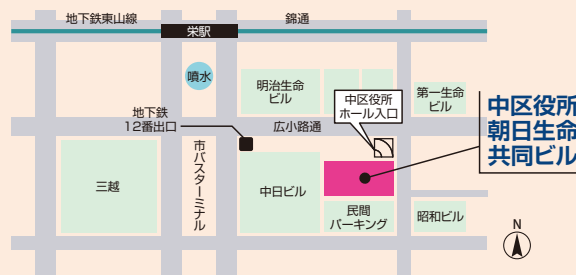
日時 令和7年 **11月29日(土)**
14:00~16:45(開場13:30)

場所 **中区役所ホール**
名古屋市中区栄四丁目1番8号 地下2階

方法 次のURLよりお申込みください。
お申込み <https://ishikai.nagoya/seminar/20251129/>
右記の二次元コードからもアクセスが可能です。



申込期間 9月29日(月)9:00~11月7日(金)17:00



地下鉄「栄」駅 下車12番出口から東へ徒歩1分

講演 Lecture



Yoshikazu Ichikawa

第1部 14:05~14:45

子宮頸がん、まだ他人事ですか？

~正しく知ることから子宮頸がん予防をはじめよう!~

日本赤十字社 静岡赤十字病院 副院長
産婦人科 部長 / 病理診断科 部長

市川 義一 先生



Yukari Hirano

MC

元中部日本放送アナウンサー
有限会社LIBRA代表取締役
平野 裕加里 氏



Aki Mukai

第2部 14:45~15:45

がんと向き合う

~自分の身体と時間を大切に~

タレント 向井 亜紀 氏

Talk show

トークショー 15:50~16:35

向井 亜紀 氏と
市川 義一 先生のトークショー



子宮けいがんはワクチンで 予防することができます

HPVワクチンの効果

現在日本において公費で受けられるHPVワクチンは、防ぐことができるHPVの種類(型)によって、2価ワクチン(サーバリックス®)、4価ワクチン(ガーダシル®)、9価ワクチン(シルガード®9)の3種類あります。

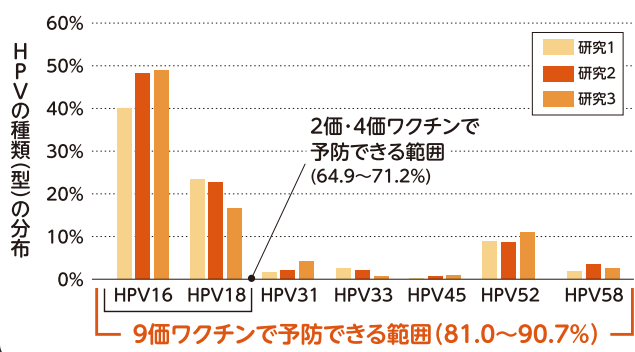
サーバリックス®およびガーダシル®は、子宮頸がんを起こしやすい種類(型)であるHPV16型と18型の感染を防ぐことができます。そのことにより、子宮頸がんの原因の50~70%を防ぎます※1。

シルガード®9は、HPV16型と18型に加え、ほかの5種類※2のHPVの感染も防ぐため、子宮頸がんの原因の80~90%を防ぎます※3。

※1・3 HPV16型と18型が子宮頸がんの原因の50~70%を占め(※1)、HPV31型、33型、45型、52型、58型まで含めると、子宮頸がんの原因の80~90%を占めます。
(※3)また、子宮頸がんそのものの予防については引き続き評価が行われている状況です。
これまでのサーバリックス®およびガーダシル®での知見を踏まえると、子宮頸がんに対する発症予防効果が期待できます(※3)。

※2 HPV31型、33型、45型、52型、58型

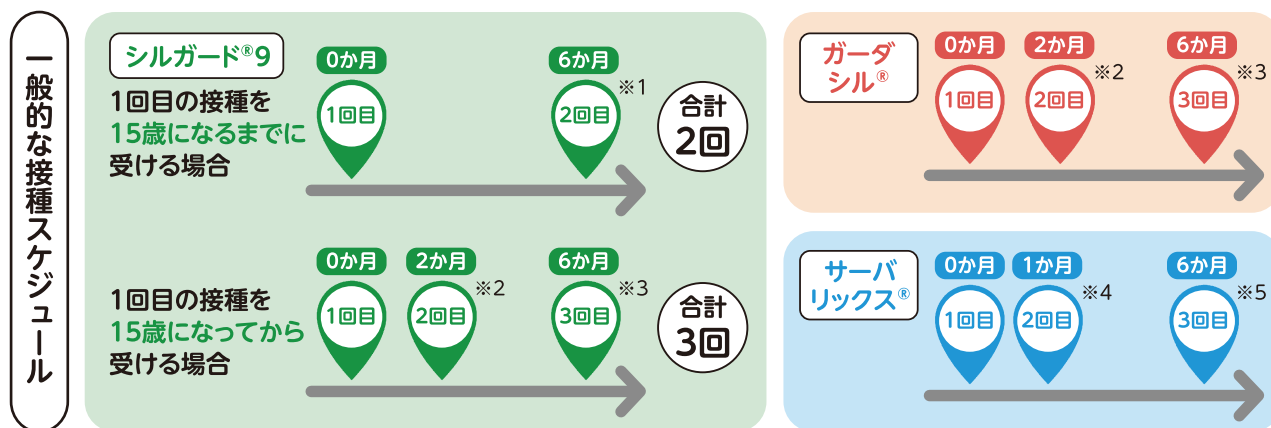
日本人女性の子宮頸がんにおけるHPVの種類(型)の分布と、
ワクチンで予防できる範囲



「9価ヒトパピローマウイルス(HPV)ワクチン ファクトシート」(国立感染症研究所)をもとに作成
研究1: Onuki,M.,et al.(2009).Cancer Sci 100(7): 1312-1316
研究2: Azuma,Y.,et al.(2014).Jpn J Clin Oncol 44(10):910-917.
研究3: Sakamoto, J.,et al.(2018).Papillomavirus Res 6:46-51.

接種スケジュール

一定の間隔をあけて、同じワクチンを合計2回または3回接種します。接種するワクチンや年齢によって、接種のタイミングや回数が異なります。どのワクチンを接種するかは、接種する医療機関に相談してください。



3種類いずれも1年以内に接種を終えることが望ましいとされています。

※1 1回目と2回目の接種は、少なくとも5か月以上あけます。5か月未満である場合、3回目の接種が必要になります。

※2・3 2回目と3回目の接種がそれぞれ1回目の2か月後と6か月後にできない場合、2回目は1回目から1か月以上(※2)、3回目は2回目から3か月以上(※3)あけます。

※4・5 2回目と3回目の接種がそれぞれ1回目の1か月後と6か月後にできない場合、2回目は1回目から1か月以上(※4)、3回目は1回目から5か月以上、2回目から2か月以上(※5)あけます。

HPVワクチンのリスク

HPVワクチン接種後には、接種部位の痛みや腫れ、赤みなどが起こることがあります。稀ですが、重い症状(重いアレルギー症状、神経系の症状)が起こることがあります。

因果関係があるかどうかわからないものや、接種後短期間で回復した症状をふくめて、HPVワクチン接種後に生じた症状として報告があったのは、接種1万人あたり、サーバリックス®またはガーダシル®では約9人、シルガード®9では約3人です。

このうち、報告した医師や企業が重篤と判断した人は、接種1万人あたり、サーバリックス®またはガーダシル®では約5人、シルガード®9では約2人です。